

記録を残した偉大なレーサーたち

群を抜く北原と加藤の偉業

ボートレースの歴史に名を刻み、多くの記録を残した偉大なレーサーの面々にスポットを当てていこう。今回の投票の参考になれば幸いである。なお今回の記録集計にあたっては、原則として公式データが整理されている1960(昭和35)年5月1日以降で本年10月10日までのレースを対象としている。また笹川賞の前身として行われていた全国地区対抗戦の個人優勝は、SG並びに記念優勝の回数には加えていない。そして、レースの公正を損なったなどの事由で懲戒処分を受けた選手は、各リストから外している。



史上最多勝の記録ホルダー・北原友次

では、まずは1着数だ(表1)。このランキングに関しては、一部1960年以前のデータを含んでいる。燦然と輝く北原友次の大記録に続くのは、“鉄人”加藤峻二。ちなみにこのトップ2人は5期の同期生である。

長い歴史においても、3000勝を達成したのはわずか4選手にすぎない。89年に倉田栄一が初めて到達、95年に北原がそれを更新した。ちなみに3000番台での最多は山室展弘の2241勝。昔ほどトップクラスの選手の出走回数は多くないので、北原の記録は空前絶後と思われる。

出走回数(表2)では、既に加藤がトップを独走しており、日々更新している。こちらも不滅の記録として未来永劫残りそう。2位以下には、SGを勝ちまくった超強豪は意外に少なく、むしろ万谷章を筆頭に、高塚清一・金井秀夫・近藤幸男ら一般戦強豪が多い。また酒井忠義・原田順一と晩成型の選手も目につく。

今村の勝率アップは驚異的!

生涯勝率(表3)は、数字の積み重ねとなる通算成績と違って、現役選手に有利な部門。老齢を迎えて成績を落とすと生涯勝率は下がってしまう、昔に比べて点増しのSGやGIがはるかに多いからだ。

参考までに、「マクール」に掲載されていた96年9月時点のランキングでは、①野中和夫7.78②今村豊7.66③岡本義則7.48④中道

善博7.16⑤小林嗣政7.11。今回の表3の数字の方が全体的に高く、また現役戦士が7人名前を連ねている。

それにしても驚異的なのは、今村の勝率だ。50歳を迎えてまだ上昇中で、歴代1位をキープしている。今村に迫るのは松井繁と山崎智也で、白井英治や瓜生正義もまだまだ右上がり。今村の座を脅かす。

SG優勝回数(表4)では、いまだ野中の17回という金字塔が輝く。選手生活の晩年にSGが増え、グランドチャンピオン決定戦やオーシャンカップも制したのでこの数字に達したが、史上初のSG3連覇を成し遂げるなど、SGの大舞台では無類の強さを誇った。とくにファン投票の笹川賞には本人の思い入れも強く、6回の優勝を飾っている。

北原は最初のグランドスラマー。全盛期が『4大特別競走』の時代に7回の優勝を挙げたことは、SG9冠時代の現在とは重みが違う。

ここでも現役では、松井があと何回の優勝を加えられるかが注目。池田浩二と瓜生もまだまだ数を増やして、ランキングの上位に上がってきそう。



大舞台での強さはケタ外れだった野中和夫

生涯賞金トップは既に松井繁

GIまでを含んだ、いわゆる「記念制覇」のランキング(表5)では、既に松井繁がトップに出た。松井の全成績をたどると、稀なほどコンスタントだ。2個目のGIを手にした95年以降今年まで、記念を勝てなかったのは2005年だけ。デビュー20年、39歳で記念50勝に達したの

表4●SG優勝回数ベスト10

順位	登番	選手名	出身	現役	SG優勝
1	2291	野中 和夫	大阪		17
2	3285	植木 通彦	福岡		10
2	3415	松井 繁	大阪	★	10
4	2096	中道 善博	徳島		8
4	3388	今垣光太郎	石川	★	8
6	1481	北原 友次	岡山		7
6	2992	今村 豊	山口	★	7
6	3024	西島 義則	福岡	★	7
6	3941	池田 浩二	愛知	★	7
10	3622	山崎 智也	群馬	★	6
10	3783	瓜生 正義	福岡	★	6

ベスト10に続くのは、5回の田中信一郎・太田和美・井口佳典。史上で5回以上SGを勝った選手は、懲戒選手を除くと14人。井口は登番4000番台で早くもそれに加わり、85期同期の湯川浩司が4回、田村隆信が3回でこれを追う。

表5●記念(SG+GI)優勝回数ベスト10

順位	登番	選手名	出身	現役	記念優勝
1	3415	松井 繁	大阪	★	58
2	2291	野中 和夫	大阪		56
3	2992	今村 豊	山口	★	52
4	1481	北原 友次	岡山		46
5	2096	中道 善博	徳島		38
6	318	倉田 栄一	三重		35
7	1488	岡本 義則	福岡		34
8	3285	植木 通彦	福岡		33
9	3388	今垣光太郎	石川	★	31
10	1864	安岐 真人	香川		27

北原友次・倉田栄一・岡本義則らの全盛時代は、今よりずっとSG、GIの数が少なかったが、30勝以上の記録を残しているのは驚異的。4000番以降では湯川浩司が最多で12勝(SG4勝+GI8勝)。SG未勝利のGI最多勝利選手は新井敏司(19勝)。

は史上最速で、今年1月の尼崎周年を制して、遂に野中をも抜いた。

松井・今村に続く現役選手は、今垣光太郎の31勝。以下、山崎26勝、加藤と服部幸男が24勝と続く。上位とはまだまだ差がある。

生涯獲得賞金(表6)でも、トップは既に松井。歴代でただひとり30億円に達しており、日々自分の記録を更新している。年間2億円突破を5回記録していて、これも史上最多だが、そのうち3回は賞金王決定戦の優勝なしでマークしたもの。いかに毎年キッチリ稼いでいるかわかる。

今垣までが20億円を突破しており、現役の濱野谷憲吾と山崎が、次の20億円レーサー

表6●生涯獲得賞金額ベスト10

順位	登番	選手名	出身	現役	賞金額
1	3415	松井 繁	大阪	★	30億7000万
2	2992	今村 豊	山口	★	26億2000万
3	3285	植木 通彦	福岡		22億6000万
4	3388	今垣光太郎	石川	★	22億4000万
5	2291	野中 和夫	大阪		18億5000万
6	3590	濱野谷憲吾	東京	★	18億4000万
7	3622	山崎 智也	群馬	★	18億1000万
8	3024	西島 義則	福岡	★	17億2000万
9	1864	安岐 真人	香川		16億9000万
10	3422	服部 幸男	静岡	★	16億7000万

こちらの項目は、SGやGIも多く、賞金が最も高かった平成10年代に全盛を迎えた選手が上位へ。植木通彦がまだ引退していなければ、どれだけ稼いだらうか。その中で加藤峻二も16億円近くを稼いでいるのはさすが。

こんなNo.1記録の持ち主はこの選手!

1位の項目	記録	達成選手	備考
最年長出走記録	69歳9ヶ月9日	加藤峻二	2011年10月21日に更新
最年長のGI優勝	62歳5ヶ月	万谷章	2006年の名人戦で優勝
記念のデビュー最短優勝	1年2ヶ月	今村豊	1982年の丸亀30周年で達成
SGのデビュー最短優勝	2年11ヶ月	今村豊	1984年の笹川賞で達成
SG最年少優勝	21歳9ヶ月	服部幸男	1992年のダービーで優勝
年間獲得賞金	2億8393万円	植木通彦	2002年に達成
期間勝率	9.53	野中和夫	1975.5.1~10.31にマーク
連勝	22連勝	岡本義則	1980年に達成
同一レース場での連勝	20連勝	中道善博	鳴門で1981~82年にかけて達成
全グレード合計の優勝回数	163回	北原友次	SG7回+GI39回+GII以下117回
同一SGの優勝回数	6回	野中和夫	笹川賞で記録
3週の走破タイム	1分42秒2	馬場貴也	今年1月26日に琵琶湖でマーク

歴代のランキングよりむしろ、1位の記録に大きな注目が集まる項目をいくつか集めてみた。まず最年長記録の多くは、加藤峻二が多く持っている。その代表は何といっても出走記録で、昨年10月に更新して以来日々更新。今年の年明けには初の70歳レーサーとなった。加藤はFの少ないことでも記録的で、3000走Fなしを2回マークしているのも彼だけだ。

逆にデビューからの最短記録や最年少記録は、今村豊や服部幸男がマーク。女子限定なら平山智加が最速記録をいくつか更新している。

年間獲得賞金の1位は植木通彦が持つ。2002年にSGを3勝して2億8千万円を稼いだ。植木は感動的なレースを数多く見せてくれたが、まだ強いうちに引退してしまったので、記録面では意外にその名が残っておらず、この年間獲得賞金ぐらいた。

9.53という空前の期間勝率を残した時の野中は、それに付随して様々な記録を作っている。この期間だけで12回優勝。そのうち8回が記念だった。51年の年間16回優勝、記念V9も後世に残る。

最後にひとつ、現役の若手レーサーが残した記録を覚えておきたい。馬場貴也が作ったレース3週の走破タイムだ。今年1月26日に琵琶湖で作ったのが1分42秒2のレコード。新ペラ制度の導入で、レースタイムは格段に速くなっているので、この記録は相当長い年月、破られないと予想される。

※懲戒処分を受けた選手の記録は対象外です



ボート創成期に“神様”と呼ばれた倉田栄一

表7●年間賞金王獲得回数ベスト5

順位	選手名	回数
1	野中 和夫	7
2	松井 繁	5
3	北原 友次	4
3	倉田 栄一	4
5	加藤 峻二	3
5	植木 通彦	3

(1956年以降)

表8●期勝率1位獲得回数ベスト5

順位	選手名	回数
1	野中 和夫	10
2	今村 豊	9
3	岡本 義則	8
4	倉田 栄一	6
4	植木 通彦	6

(1958年前期以降)

表1●1着数ベスト10(一部1960年以前のデータを含む)

順位	登番	選手名	出身	現役	1着数
1	1481	北原 友次	岡山		3409
2	1485	加藤 峻二	埼玉	★	3262
3	318	倉田 栄一	三重		3088
4	1488	岡本 義則	福岡		3030
5	678	瀬戸 康孝	佐賀		2958
6	962	吉田 弘明	愛知		2834
7	1710	万谷 章	岡山	★	2821
8	1910	大森 健二	岡山		2729
9	1781	谷川 宏之	愛知		2653
10	2276	古谷 猛	岡山	★	2652

3000勝をマークした選手は4人だけ。最近では年間100勝する選手といえは15人前後で、昨年の最多勝は勝野竜司と瓜生正義の124勝。3000勝をあげるには、100勝を30年間に渡って残さねばならないのだから途方もない。

表2●出走回数ベスト10

順位	登番	選手名	出身	現役	出走回数
1	1485	加藤 峻二	埼玉	★	14122
2	1710	万谷 章	岡山	★	11573
3	1759	酒井 忠義	香川	★	11320
4	1481	北原 友次	岡山		11139
5	2014	高塚 清一	静岡	★	10936
6	2430	林 貢	岡山		10816
7	1531	井上 弘	群馬		10543
8	2273	原田 順一	福岡	★	10258
9	2042	金井 秀夫	群馬		10190
10	2015	近藤 幸男	神奈川	★	10181

最近の選手の平均的な出走回数は1年で200走程度で、300走する選手は10人程度。登録3000番以降で最多は西山昇一の7714走。SG常連よりむしろ、一般戦で上位の成績を残し、スタート事故の少ない選手が上位に来る。

表3●生涯勝率ベスト10(出走回数2000走以上)

順位	登番	選手名	出身	現役	勝率
1	2992	今村 豊	山口	★	7.88
2	3415	松井 繁	大阪	★	7.82
3	3622	山崎 智也	群馬	★	7.71
4	3285	植木 通彦	福岡		7.58
5	3897	白井 英治	山口	★	7.55
6	2291	野中 和夫	大阪		7.50
7	3783	瓜生 正義	福岡	★	7.48
8	3422	服部 幸男	静岡	★	7.46
9	3388	今垣光太郎	石川	★	7.46
10	1488	岡本 義則	福岡		7.45

ベスト10の後も、11位に上瀬和則、12位濱野谷憲吾、13位池田浩二と現役が続く。また出走回数を1000走以上に緩めれば、5位に“サムライ”と呼ばれたファイター・長瀬忠義(登番1284・広島・勝率7.56)が入ってくる。